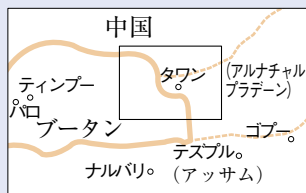


メコノプシス・ルドロイー

2点ともインド・アルナーチャルプラディッシュとブータン国境付近
標高 4210m



幸せの国・ブータンの メリーポピーたち

15

花を求めてブータン紀行

松永秀和

前号で1カ月半にわたる2015年のブータンの旅は終わったが、この旅では合計15種の青いケシを見ることができた。実は、この前年インド・アルナーチャルプラディッシュ州とブータンの国境付近で花探索を行い、6種の青いケシを見ることができた。そのうちの3種はこれまでに紹介したメコノプシス・ベラ、M・シヌアータ、M・シンプリキフォリアで、残りの3種はこの地域に固有だ。直接ブータン国内で見ただけではないが、東ブータン内で観察されていることから、このシリーズの補足として紹介したい。

最初に紹介する花はメコノプシス・ルドロイー。丈は10〜15cm、花の直径は2cm程度と小型である。葉は茎の基部にロゼット状に付き、葉の縁に切込みがある。(3月号で紹介したM・プリムリナとよく似ているが、こちらには切れ込みがない)濃青紫色の花弁の付け根に濃紫色のプロッチがあり、虫に蜜のありかを知らせている。

花の名は、プラントハンター、ジョージ・シエルファイのパートナーであるフランク・ルドローの名にちなんでいる。ルドローはケンブリッジ大学で、キングドン・ウォードの父マールシヤル・ウォードから生物学を学んだあと、インドに赴任する。パキスタンで教育に携わった後、チベットで領事業務を行う。1929年シエルファイと出会い、その後の半生を植物採集に捧げた。この花は1934年シエルファイと共にブータンメラ地方からチベットへ向かう途中、オルカラ峠で発見したものだ。写真の花は、オルカラ峠から10km程北へ行った崖下に咲いていたのを恐る恐る写したものだ。